

## ヒトの寿命はすでに限界に達している

19世紀以降、科学技術の進歩によりヒトの寿命は大きく伸びた。人口統計学的には高齢者の死亡率が低下し、世界最高齢は上昇している。本研究では、40か国以上の死亡およびその他の人口データについて統計をとった、ヒト死亡データベースを追跡した。その結果、高齢者の割合は1900年以降増加し続けていたが、100歳以降の生存率には変化はなかった。これらのデータに基づき、平均寿命の最大値は115歳で、絶対的な寿命の上限は125歳であると算出された。また、ある人が125歳に到達する確率は1万分の1未満となる。

今回のデータから、ヒトの寿命は1990年代にすでに限界に達していることが示唆された。医学の進歩により寿命が延びる可能性もあるが、それには寿命を決定している多くの遺伝的変異を克服しなければならないと考えられる。

出典：Nature. 2016; 538(7624): 257-259